



Contents

- 🌲 ご挨拶
- 🌲 第5期中長期計画～水源林造成業務の概要～
- 🌲 水源林造成事業の施業指針を作成しました
- 🌲 農用地整備のあゆみ
- 🌲 森と湖に親しむ旬間



水源林

季刊

Forest Management Center

第1号 2021.6

新しい中長期計画がスタートしました

ご挨拶

令和3年4月より森林整備センターが取り組む「第5期中長期計画」についてご紹介します。



集中豪雨等の災害 に対応するため 「流域保全の取組」 等を強化します

森林整備センターでは、昭和36年から水源涵養^{かん}上重要な民有保安林のうち、無立木地や散生地など森林としての機能が低下している箇所を分収造林契約方式で整備する水源林造成事業を実施しており、現在までに民有保安林の約1割に相当する48万haの森林を造成しました。

しかしながら、近年、集中豪雨等の気象害が頻発・

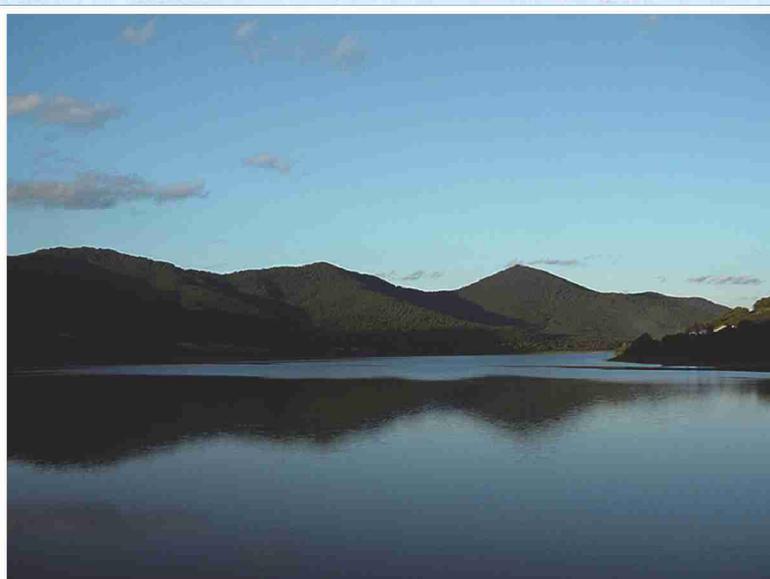
激甚化し、森林・山村や下流域に甚大な被害が発生する中で、流域保全等における役割への期待が高まっていることから、国土強靱化基本計画等を踏まえた森林整備に積極的に取り組んでいくことが必要となっています。

このため、当センターの果たすべき役割の重要性の高まりを踏まえ、令和3年4月から新たに始まる「第5期中長期計画」においては、流域保全の取組を強化し、長年培ってきた森林施業の高度な技術的知見に基づいた針広混交林や育成複層林の造成を積極的に進めるとともに、森林整備技術の普及や自然災害による被災森林の復旧等にも取り組みます。

このような水源林造成事業の実施を通じて、安全・安心な国民生活や脱炭素社会の実現に貢献できるよう、職員一丸となって努力して参ります。

森林整備センター所長
(令和3年4月就任)

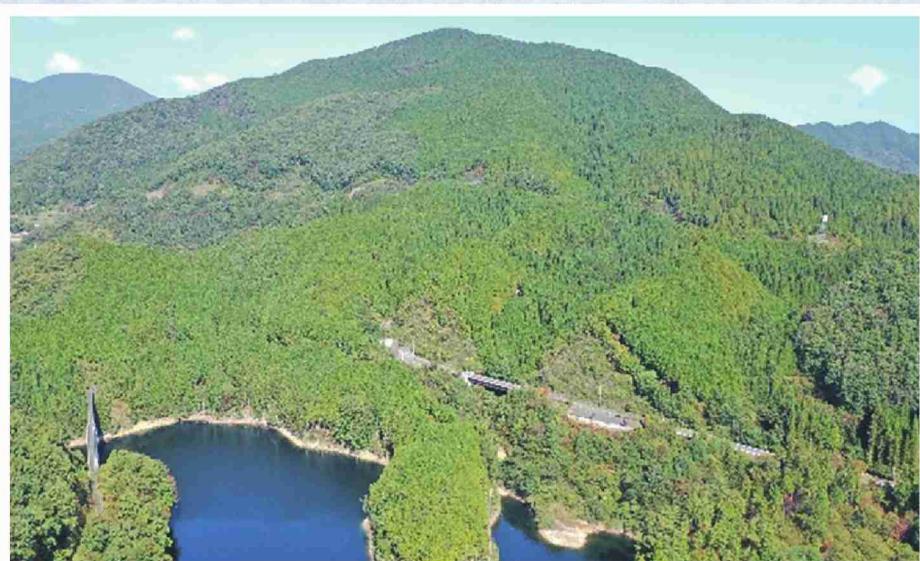
志知 雄一



(北海道南富良野町)



(鹿児島県薩摩郡さつま町)



三室ダム周辺の水源林造成事業地（岡山県新見市）

水源涵養機能等の公益的機能を高度に発揮させる森林の造成

自然災害が頻発・激甚化する中で、流域保全等における役割への期待が高まっています。

森林所有者、造林者及び市町村等の関係者との連携強化を一層図りつつ、次の取組を進めます。



(1) 事業の重点化

■流域保全の取組の推進

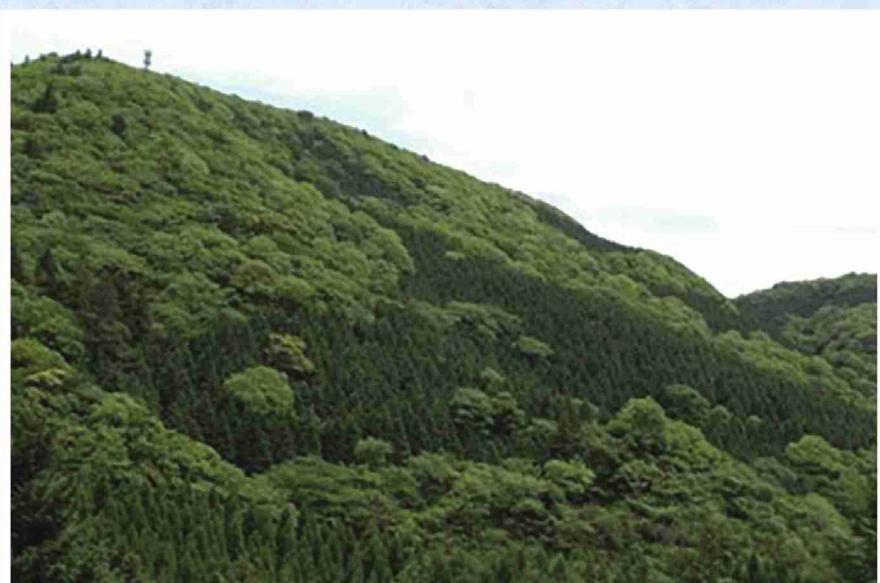
- ✓ 流域治水と連携
- ✓ 特に水源涵養機能等の強化を図る重要性が高い流域内の箇所に限定して新規事業を実施
- ✓ 面的な整備を推進



育成複層林（大分県日田市）

■持続的な水源涵養機能の発揮

- ✓ 新規の分収造林契約は、広葉樹等の現地植生を活かし、長伐期かつ主伐時の伐採面積を縮小・分散する施業方法に限定
- ✓ 既契約地は、育成複層林誘導伐とその後の植林を進めるなど脱炭素社会の実現にも貢献



長伐期の針広混交林（山口県萩市）

(2) 事業の実施手法の高度化のための措置

■森林整備技術の高度化

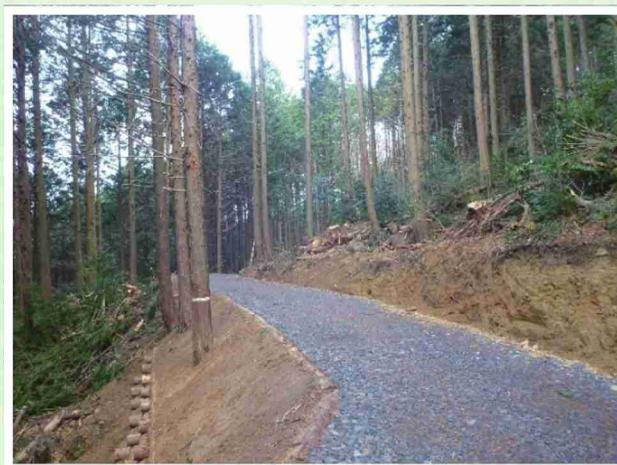
- ✓ 成長の早い苗木などの新しい技術の活用や低コスト化・省力化など森林整備技術の高度化に取り組む



シカ被害対策「ブロックディフェンス」の外側に残置した獣道を歩くシカ（山梨県南部町）



間伐木の搬出状況（福島県郡山市）



丸太組工法（のり留工）の設置例（佐賀県唐津市）

■木材供給の推進

- ✓ 地域の需給動向を踏まえた木材供給を推進

中長期計画の推進

森林整備センター（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）では、農林水産大臣が定めた中長期目標に基づいて、令和3年度から5年間の『第5期中長期計画』を策定しました。

この中長期計画に沿って計画的な業務遂行を行うとともに、業務実績について毎年度に評価を受けます。

中長期計画の策定

年度計画の策定

計画に基づく業務の実施

業務実績評価



新しい中長期計画～水源林造成業務の概要～

(3) 地域との連携



H26年4月 森林火災（群馬県桐生市）

■災害復旧への貢献

- ✓ 自然災害発生時に被災森林の迅速な復旧を図るため、地域との連携強化や支援に取り組む



復旧後（H29年撮影）



森林3次元計測システムによる森林計測についての講演（関東整備局）

■森林整備技術の普及

- ✓ 林業関係者等へ森林整備技術の普及や水源林造成事業に対する理解を醸成



（農林水産省ホームページで公表 <https://www.maff.go.jp/j/corp/dokuhou/>）

将来の森林の姿と歩むべき方向を定めた計画のスタートです。
新しい森林整備がはじまります。



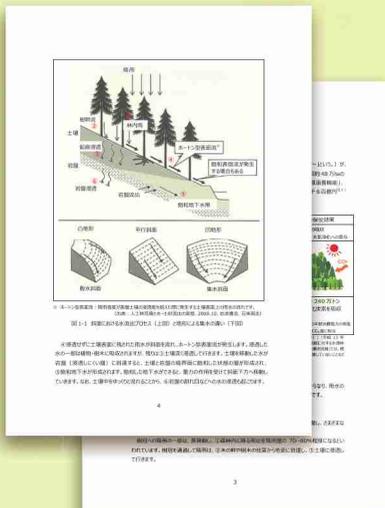
「水源林造成事業の施業指針」を作成しました

森林整備センターでは全国の現場で試行錯誤しながら針広混交林・育成複層林の造成手法を確立してきました。

この度、

「針広混交林や育成複層林など森林施業の目的や手法」「森林の公益的機能に関する科学的知見に基づく解説」を取りまとめた「水源林造成事業の施業指針」を作成しました。

水源林の公益的機能



水源林造成事業の概要

水源林造成事業の施業指針



令和 3 年 3 月

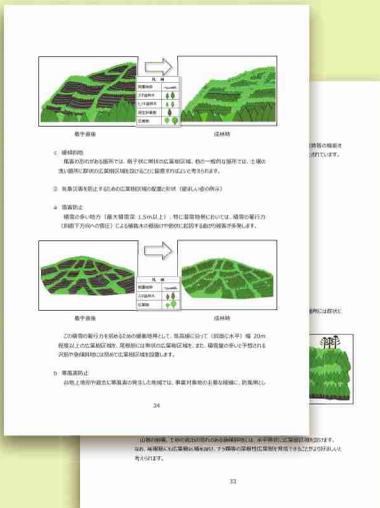
私たちは森を創り、ゆたかな緑を育てています。

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林整備センター

育成複層林



針広混交林



植栽と保育

くわしく知りたい方は

森林整備センターホームページで公開してますので
下記 URL からご覧下さい



https://www.green.go.jp/zorin_jigyo/annai/



農用地整備のあゆみ

農用地整備事業は、農用地総合整備事業及び特定中山間保全整備事業を、昭和 63 年度から平成 25 年度にかけて中山間地域の森林及び農地が混在する地域で実施してきました。

その前身は昭和 30 年に設立された農地開発機械公団であり、農用地開発公団、農用地整備公団を経て、平成 11 年に業務を承継した緑資源公団へ農用地総合整備事業及び特定中山間保全整備事業は引き継がれました。

農用地総合整備事業では区画整理、^{あんきよ}暗渠排水、客土、土層改良といった面的な整備事業と農業用道路、農業用の用排水施設などの線的整備事業を実施。特定中山間保全整備事業では区画整理、^{あんきよ}暗渠排水、客土、土層改良、林地転換、に加え農林業用道路、農業用の用排水施設、付帯する鳥獣害防止施設等の整備を行いました。

また、「令和元年台風第 19 号の暴風雨による災害」に伴う宮城県林道災害査定関連業務への支援等を水源林造成業務関係職員と共同で行い長年培った知見や技術力を発揮しました。

令和 2 年度末をもって、すべての農用地業務に係る評価業務を終えたことから農用地業務室を閉室し、昭和、平成、令和にわたる 70 年余りの農用地整備の歴史に幕を下ろすことになりました。



区画整理
(岐阜県 美濃東部区域)



^{あんきよ}暗渠排水
(北海道 幕別区域)



農林業用道路
(島根県 邑智西部区域)



※ は本事業で実施する工種
 は他事業等で整備



「森と湖に親しむ旬間」!

しゅんかん

7月21日～7月31日

<令和元年の様子>



「山の学校 川の生きもの」

(園内の溪流で水中生物の観察)

清和県民の森：千葉県君津市

【写真は HP “清和県民の森 Blog” より】



「豊平峡ダム見学デー」

(キャットウォークからの見学)

豊平峡ダム：北海道札幌市



「第18回長沼はす祭り」

(遊覧船)

長沼ダム：宮城県登米市

【写真は HP “国土交通省” より】



森と湖に親しむ旬間の
シンボルマーク

国土交通省及び林野庁では、昭和62年度から、国民の皆さんに森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等のもっている自然豊かな空間や社会生活にはたしている役割について理解を深めていただくことを目的として、毎年7月21日から7月31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めています。

この旬間には、本趣旨に沿って全国の管理ダムを中心とした各種行事が行われています。

詳しくは

林野庁ホームページ

https://www.rinya.maff.go.jp/j/suigen/suigen/con_3.html

国土交通省ホームページ

<https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/campaign/shunnkan/>

注意!

新型コロナウイルス感染拡大防止などのため各イベントが中止・延期されることがあります

発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター

〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町66-2 興和川崎西口ビル11階

電話：044-543-2500 (代表) FAX：044-533-7277

Mail：info@green.go.jp HP：https://www.green.go.jp/



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。